

日本薬学会の新たな飛躍を目指して To Open a New Era of the Pharmaceutical Society of Japan

西島 正弘 (Masahiro NISHIJIMA)

国立医薬品食品衛生研究所 (National Institute of Health Sciences (NIHS))

日本薬学会は、我が国の生命科学と医療を支えるための薬学研究および薬学教育を発展させる中核的学術団体であり、医療の改革・推進が進められる中、一層の貢献が求められている。平成23年度からスタートする「第4期科学技術基本計画」では、「環境・エネルギー」と共に、「医療・介護・健康」が二本柱の一つとして掲げられ、安全性が高く優れた日本発の革新的医薬品、医療・介護技術の研究開発を推進することが決定された。このことは、医療・介護・健康が国民の最大関心事であることを示すものであり、薬学会はこの計画に向け、大いに力を発揮し、貢献すべきである。第4期化学技術基本計画では社会に役立つ「出口志向」の研究が重視されているが、薬学会では、薬学がカバーすべき創薬、医療、衛生の各分野で、基礎研究から応用研究までバランスのとれた研究が行われるようを心がけたい。また、再生医療、医療機器、薬剤疫学、レギュラトリーサイエンス、トランスレーショナルリサーチなど、今日まで薬学での取り組みが遅れている分野や新しい分野を発展させたい。

薬学教育6年制の導入は、我が国の薬学史に残る大改革であり、平成23年度は、最初の6年制薬学部学生が最終学年を迎える年であり、6年制の歴史の中で一つの大きな節目の年となる。薬学会は、この改革の流れの中で、医療系薬学分野への対応、平成20年から検討されてきている学術誌4誌の審査方法やスコープの見直し、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂、6年制学部における大学院教育システムの確立、薬学会学生会員の確保など、重要な取り組みが数多く求められており、これらに着実に対処していきたい。また、日本薬剤師会や日本病院薬剤師会などの薬剤師職能団体との連携は益々重要であり、薬剤師生涯研修、医療薬学コンテンツの充実などで連携したり、これら団体が一同に会する「薬学総会」の開催を検討したい。

日本学術会議は我が国の学術研究の方向・長期展望を取りまとめ、「日本の展望—学術からの展望2010」を作成し、その一環として同会議薬学委員会は「薬学分野の展望」を作成した。また、薬学会将来展望委員会は「薬学の展望とロードマップ」を作成し、明日の薬学に対する期待と要求に関する将来展望を具体的な例により提示した。ここで示された提言の数々は時宜を得たものであり、その実践がこれからの任務である。

革新的医薬品や医療・介護技術の研究開発が求められ、同時に薬学教育システムが大きく変革する中、薬学会は新たな飛躍を目指さなくてはならない。また本年度から薬学会は新公益法人として、新定款に基づき、「公益性」に対する会員の理解も得て、公益認定基準を遵守した学会運営をしなくてはならない。私は、今年度から始まる任期2年制の会頭として、微力ながら全力を尽くす所存であり、会員各位のご理解とご支援を切にお願いする次第である。